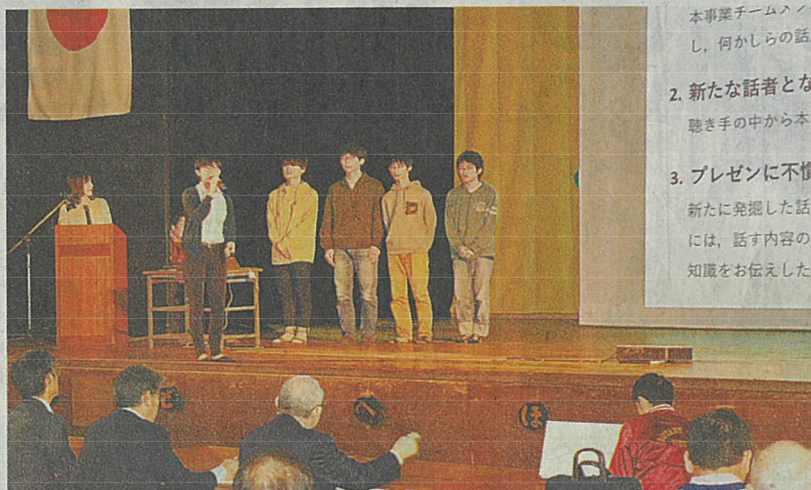


大学生がまち活性化策

- 本事業チームへ
し、何かしらの話
2. 新たな話者とな
聴き手の中から本
 3. プレゼンに不慣
新たに発掘した話
には、話す内容の
知識をお伝えした

最優秀賞に近畿大チーム



審査員たちの前でまちの活性化策を説明する学生たち

飯塚RC50周年事業 6チーム提案

飯塚ロータリークラブ（RC）の創立50周年記念事業の一環で、飯塚のまちの活性化策を大学生が提案するプレゼンテーション大会が14日、飯塚市の嘉穂劇場

で開かれた。同市内にある2大学・1短大の計6チームがアイデアを出し、企業

経営者や大学関係者ら約160人が耳を傾けた。「短期企業体験型インターンシップ」を提案した近畿大産業理工学部のチームが最優秀賞に輝いた。

同学部他、九工大情報工学部、近畿大九州短大の中から1次審査を通過した

6チームが持ち時間10分でアイデアを披露。実現の可能性や斬新性などを審査員が評価した。

最優秀賞となった近畿大産業理工学部の学生でつくる「飯塚ひとまち研究会」は、同学部卒業生の同市内

での就職率が1〜2%と低いことを指摘。大学2年生を対象に早い時期からの就業体験を提案し、市内企業へのアンケートなど具体策

も示した。今月1日に飯塚市吉原町で開設した学生と企業などの交流拠点「つなぐカフェ@飯塚」で展開する内容。同学部3年の柳沢拓斗さん(21)は「なぜ飯塚に学生が残らないのかを考

え、複数の案の中から取り組んできた」と話した。賞金30万円のほか、実行資金として今後、上限20万円を受け取る。

このほか、九工大のチームは「地元企業と大学生をつなぐサイト」を提案。中心商店街の空き店舗への出店、ゲームスポーツ大会の実施なども提案された。
(座親伸吾)